

# 都市塾

高度成長期に都市計画を実践した先輩たちの話を聞く会

2019.5.30 (木)  
15:00 - 17:00

急激な都市化が進む途上国では、我が国が高度成長期に経験した多くの都市問題と同様な課題に直面しています。西欧では、100年を超える年月をかけて都市化が進行しましたが、我が国では約50~60年という一代で都市の変化を経験した方々がご存命であります。これは、世界的にも稀なことで、当時、都市計画を担当された方々がお元気なうちに、都市計画に携わる若者達に向けて経験を語ってもらい、諸先輩方の経験を次の世代に継承して欲しいと考え企画したものです。ぜひご参加下さい。



## 第3回 途上国の都市計画を考える 際の日本の経験

「都市計画のたて方」として、全建の都市計画の立て方、「21世紀の育都論」等を著されています。  
これらをもとにお話いただきます。

講師 渡部 與四郎 氏

講師略歴

同済大学名誉顧問教授、建設省技術参事官、筑波大学教授、法政大学教授、都市計画学会会長。区画整理士協会会長

勲三等瑞宝章叙勲（平成9年）

日本モノレール協会顧問（平成29年～）

会場 アルメック VPI

9階会議室

会費 2000円

# 都市塾の開催

～途上国の都市計画を考える際の日本の経験～

日本における都市計画の歴史は、アジア諸国にとっては、自国の発展の目標とするために学びたいと、多くの担当者が本邦研修に訪れています。

JICA では、アジア、アフリカ諸国への支援として、都市計画マスタープラン策定などの支援を実施しています。特に、途上国においては、経済成長とともに、都市へ人口が集中し、市街地のスプロール、交通混雑、公害発生など多くの都市問題を発生させています。

これらの都市問題は、我が国の 1950～1960 年代の高度成長期前後の都市問題と類似し、この時期に多くの都市計画制度が整備され、都市開発事業が実施されています。

このような戦後の廃墟から先進国の仲間入りを果たした我が国の経験は、約 50～60 年で成し遂げられ、西欧の 100 年を超える変化を一代で経験した方々がご存命であります。これは世界的にも稀なことで、当時の都市計画を直接担当し経験した方々のご存命のうちに、若者たちに経験を語ってもらい、伝承していくことが大切と考えています。

この時期に日本の都市計画の第一線で活動され、現在の都市計画へ至る数多くの制度、事業に携われ、日本の都市計画に多大な貢献をされた「渡部與四郎先生」に、前回に引き続き、「都市計画のたて方」というテーマで講義いただき、皆様の、今後の途上国における都市政策の取り組みに、大いに参考にしてほしいと願っています。

平成 31 年 5 月